

1 活動体験

会員とボランティアの皆さんが、富士山の自然を守る取組を直接体験する活動を行いましたので、その様子をお知らせします。

1 第1回外来植物撲滅大作戦

と き 9月9日(土)10時から13時まで

ところ 座学：富士山麓山の村 抜き取り：西臼塚駐車場
(富士宮市粟倉)

参加者 55名

案 内 認定非営利活動法人 富士山クラブ

内 容 富士山麓山の村において、まず、座学で外来植物がなぜ問題なのか、また、どうやって外来植物を抜き取るのか、説明が行われました。

その後、西臼塚駐車場へ移動し、全員でヒメジョオン、オオアワガエリ、セイヨウタンポポなどを、根を残さないよう気を配りながら抜き取りました。

抜き取った外来植物の重さは、40kgにも達しました。



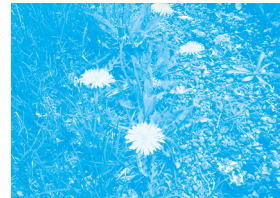
「山の村」管理棟で、今日の活動の意義について受講。



薄い霧が出ることもありましたが、丁寧に抜き取りが行われました。



参加したみなさんで、記念撮影。



上：セイヨウタンポポ
左下：オオアワガエリ 右下：ヒメジョオン

2 富士山の草原性植生保全活動体験(草刈)

と き 9月30日(土)10時から15時まで

ところ 富士宮市根原(根原県有地)

参加者 26名

主 催 静岡県・富士宮市・ふじさんネットワーク

協 力 NPO法人 富士山自然の森づくり

内 容 朝霧高原と言えば、富士山の前に広がる草原が思い浮かびます。そこにはノウサギやヒバリなどの小動物や、背の低い草花など、草原を好む生きものが暮らしています。かつては人が、かやぶき屋根の材料や薪、肥料として草を刈ることにより、草原が保たれていました。現在では、定期的に草刈りを行わないと、やがて木が生い茂る森へと変わっていき、草原を好む生き物が居場所をなくしてしまいます。

このため、繁殖力が高く、他の植物への日当たりをさえぎる大人の背たけほどもあるススキを刈り取る体験を行いました。

毎年参加されているアサヒ飲料株式会社富士川工場の皆さんは、刈り取った後のすっきりした草原を見ながら

「気持ちのいい汗をかきました」とさわやかな笑顔でした。



顔が隠れるほど高いススキを刈り進みました。



富士山をバックに記念撮影。



「草原のセミナー」で、朝霧高原の動植物について学びました。



力を合わせて約1haのススキを刈り取りました。
(手前側が刈り取り後)

3 秋の富士山ごみ減量大作戦

と き 10月21日(土)9時30分から11時30分まで

ところ 裾野市須山周辺

参加者 67名

主 催 静岡県・静岡第一テレビ24時間テレビチャリティー委員会・裾野市、
ふじさんネットワーク

内 容 今年の秋は、富士山麓も長雨にさらされましたが、そんな中でも、心ないポイ捨てごみはたまり続けていました。

それに対してこのたび、世界遺産構成資産である須山浅間神社に向かう途中の道路などで、ボランティアの皆さんによる清掃活動「秋の富士山ごみ減量大作戦」を実施しました。

当日は台風が近づき、雨が強くなっていく空模様となってしまいましたが、昨年を上回る数の参加者の皆さんがごみ拾いに取り組んでくださいました。特に、小中学生の皆さんは小さなごみも見逃さずに捨ててくださいました。

その結果、可燃ごみ150kgと不燃ごみ270kg、計420kgものごみを回収することができました。ごみの中には、不法投棄されたテレビやタイヤ、バッテリーなども見られました。

また、裾野市の協力により、裾野市立富士山資料館の無料見学も行われました。



車からポイ捨てされたと思われるごみが、多く見つかりました。



子どもたちも、目の良さを活かして活躍しました。